

ハイブリッド方式の運用法 に関する議論経緯 —地方小規模校のケース—

高知工科大学教育センター長
古沢 浩



CONTENTS

- ① 原点：4月を振り返る
- ② ハイブリッド度のグラデーション
- ③ 意思決定とインクルーシビティ

① 数字で見る1年生

4学群

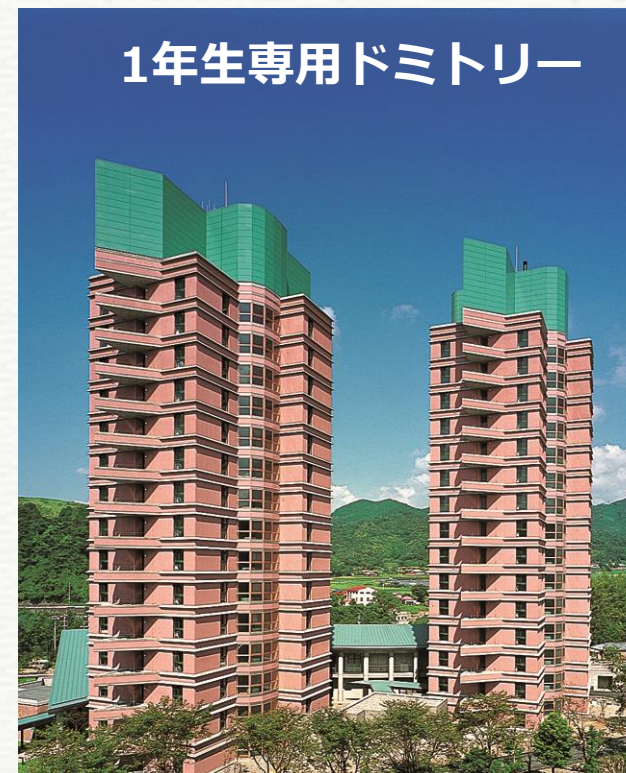
理工系3・文系1

550名

学年全体の総数

28%

中部・近畿地方出身者率





① 1年生の4月

4月3日

オリエンテーション中止を
建物へ入る直前にアナウンス

4月16日

オンライン講義がスタート

入寮

中止

離学

開始

4月2日

ドミトリー生活スタート

4月9日

離寮・帰省を奨励



① 4月の合言葉

誰ひとり取り残すことなく



を実現する



① 4月の合言葉

誰ひとり取り残すことなく

今年度中の単位認定を実現する

—そのために必要な緊急処置を行なう

—そのために各教員が創意工夫をする



① 4月の論点

リスク

vs

コスト

バランス



CONTENTS

- ① 原点：4月を振り返る
- ② ハイブリッド度のグラデーション
- ③ 意思決定とインクルーシビティ



② 背景にある数値目標

4000人 香美キャンパスの教室収容人数

1800人 香美キャンパスの収容可能試験定員

キャンパスに滞留している
学生の数を通常時の半分にする



② 学年別の対応



90% 1年生

30% 2年生

10% 3年生

対面授業の科目数率
にグラデーションを
つけた



CONTENTS

- ① 原点：4月を振り返る
- ② ハイブリッド度のグラデーション
- ③ 意思決定とインクルーシビティ



③ 9月以降の論点

意思決定

VS

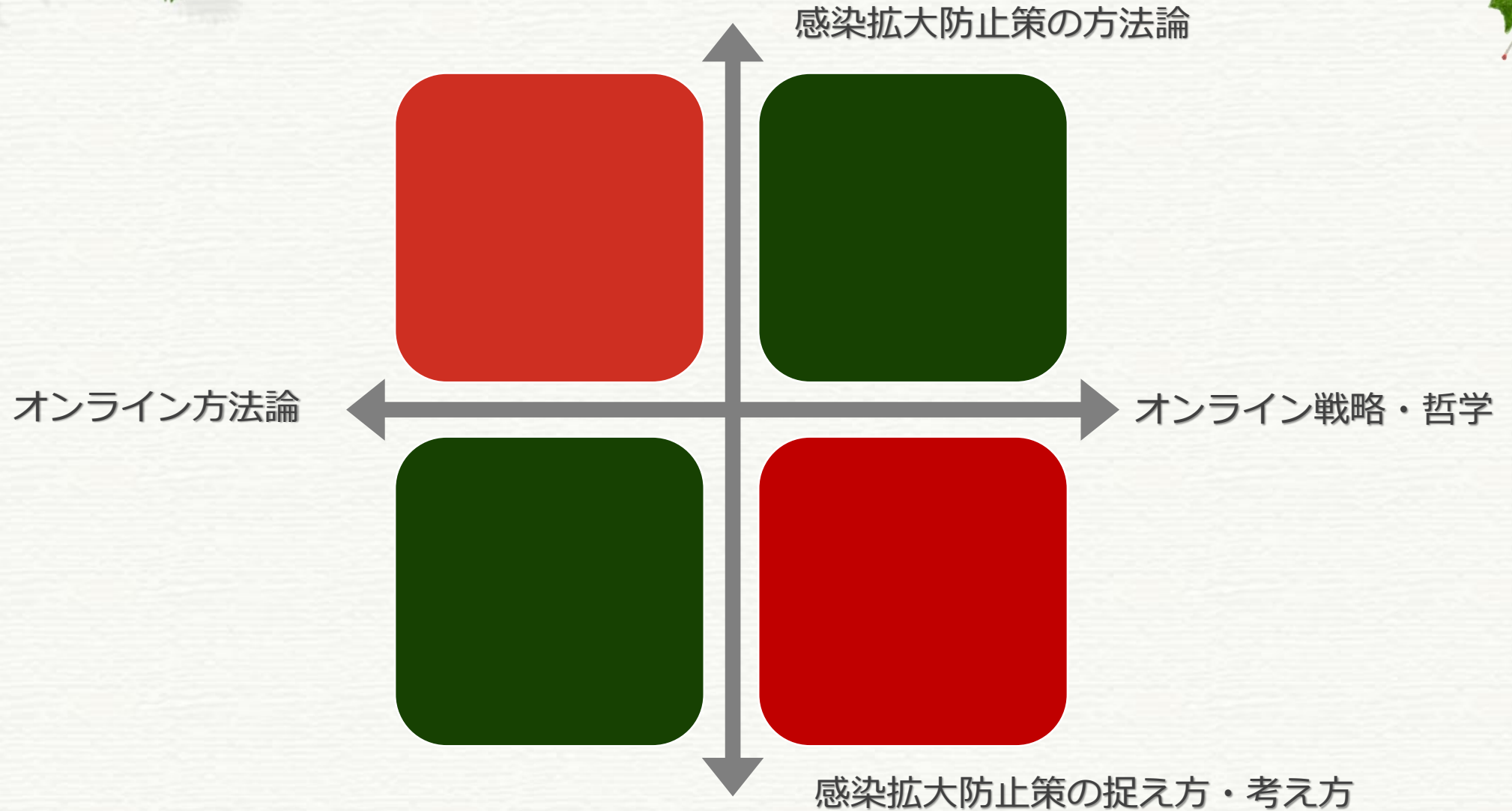
インクルー
シビティ

数値目標達成のための
意思決定

インクルーシブな
制度設計

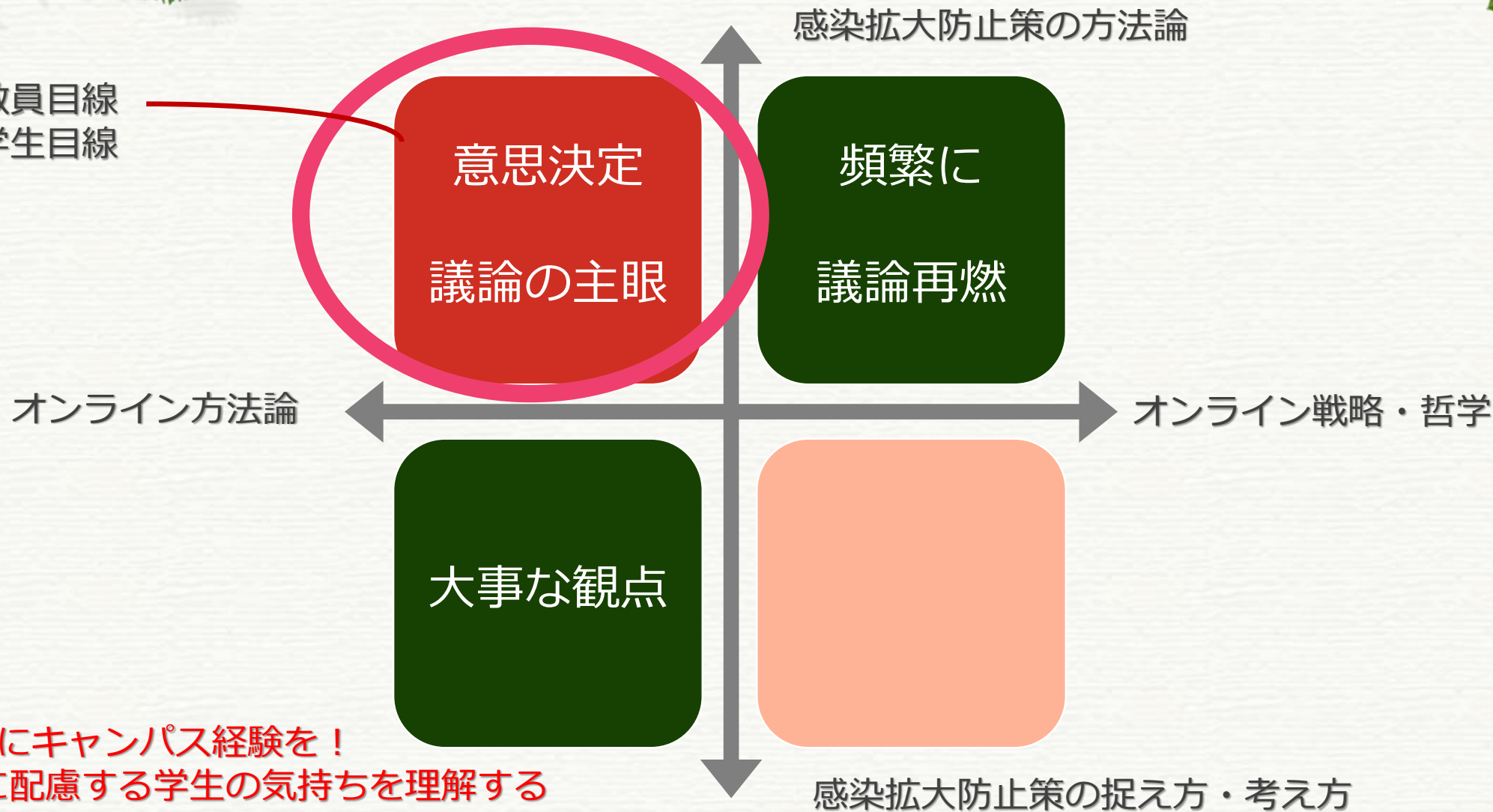
バランス

③ 議論象限の特定が大事



③ 意思決定の象限

教員目線
学生目線



- ・ 1年生にキャンパス経験を！
- ・ 家族に配慮する学生の気持ちを理解する



③ 実感していること — 総括に代えて —

- ▲ 意思決定プロセスの共有が大事
- ▲ 教職協働組織（センター）の意義を実感
- ▲ オンライン教育部会の設置により
情報センターの論理が理解できた
- ▲ 意思決定プロセスを共有しきれない
教員・学生の意見に配慮しようとするすることで
弱い象限の補完が行うことができる（→実効性が増す）



誰ひとり取り残すことなく

withコロナのなか学び続けられる
そして、意欲的教育が続けられる
ための環境・制度改革を行なう